

(1) 教育理念

岐阜大学は、「学び、究め、貢献する」地域に根ざした国立大学として、学術・文化の向上と豊かで健全な社会の発展に貢献する人材を社会に送り出すことを基本理念に掲げている。その基本理念・目標を、岐阜大学学生憲章で「基盤的能力」として取りまとめた。

「基盤的能力」は「考える力」「伝える力」「進める力」の3つの力を柱とし、それぞれを3つに分けた9つの要素として示されている。(表1)

(表1) 岐阜大学学生憲章『基盤的能力』



岐阜大学の教育課程は、この「基盤的能力」を踏まえ、大学全体としてどのような人材を育成するのかを学位授与方針(ディプロマポリシー)として、以下の基盤的能力及び専門的能力を総合的に備えている人に学士の学位を授与することとしている。

- 豊かな人間性を支える基盤的能力
 - ・考える力(総合的判断力)
 - ・伝える力(コミュニケーション力)
 - ・進める力(自立的行動力)
- 専門的職業人として必要な専門的能力
 - ・社会に貢献できる高度な専門的能力
 - ・深い見識と専門分野に立脚した見方・考え方
 - ・広い教養と高い倫理観に基づく社会的責任感

また、上記の基盤的能力及び専門的能力を備えた専門職業人を育成するために、どのよう

な教育プログラムを組み、実践していくのかを教育課程編成・実施の方針(カリキュラム・ポリシー)として以下のように示している。

- 豊かな人間性を支える基盤的能力を培う。
- 学習成果を適切に評価し、自主的に学習に責任をもって取り組む態度を培う。
- 社会的責任を果たすことができる倫理観を培う。
- 人文科学、社会科学、自然科学、健康科学にわたる教養教育を実施し、生涯学習の基礎を培う。
- 到達目標を明確にした体系的な教育課程を編成し、専門的職業人に必要な知識・技能を培う。
- 専門分野を生かした見方・考え方を培う。

教職課程支援部門の教育理念も、当然のことながら、上記の岐阜大学の教育理念と同じであり、教職課程の編成・実施もこの教育理念に基づくものである。

(2) 目標

全学共通「教職課程」では、岐阜大学で学生が身に付けるべき「岐阜大学学生憲章『基盤的能力』」を踏まえ、次の4つの目標を設定し、その実現を目指している。

1 確かな「専門性」をもつ

自らが所属する「学部」及び「学科・課程」における「教育の目的・目標」に沿って、確かな専門性を身に付けること。

2 「学部の専門性」と「高等学校の教科・科目(学校保健・養護)」との関連性を捉える

各学部で身に付ける「専門性」は「高等学校の教科・科目(学校保健・養護)」の指導内容そのものではない。学部の学科・課程で学んだ「専門性」と教員免許状の「高等学校の教科・科目(学校保健・養護)」の指導内容とをつないで捉える能力を身に付けること。

3 「教職」に関する基礎的知識と素養をもつ

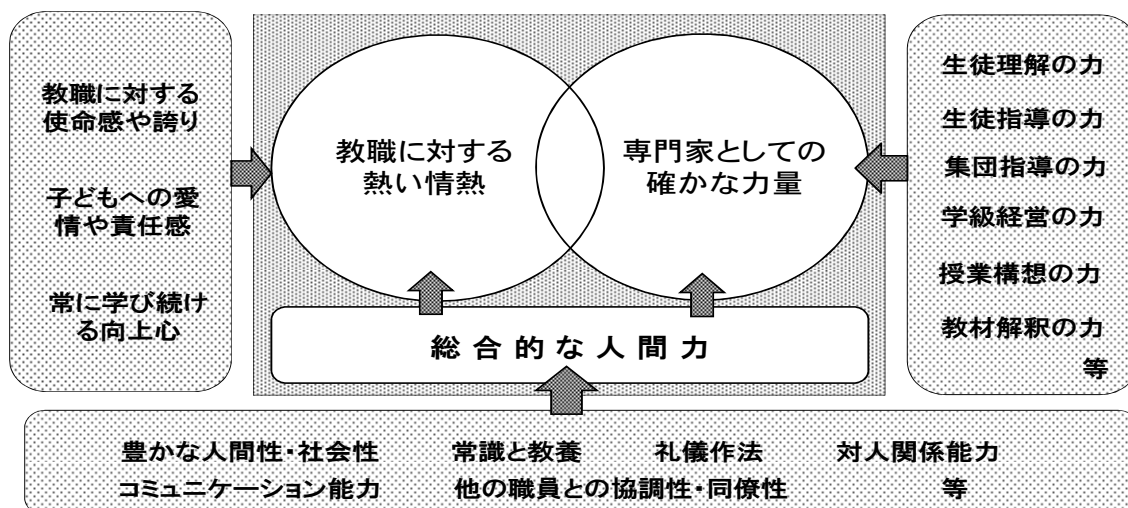
教育という仕事は、上記の1、2だけではなく、教員として必要な「教職」に関する基礎的な知識と素養が求められる。教職全体に関する確かな基礎知識と素養を身に付けること。

4 自らの「人間性」を高める

子どもの成長に直接関わる教育の仕事に携わる者は、社会人・職業人として持たなければならない「常識」とともに、自分自身の「人間性」を高めようとする「学びの姿勢」を身に付けること。

この4つの目標は、教員免許状の取得を目指す学生が、学部の学科・課程及び教職課程の学修を通して身に付けて欲しい資質・能力である。また、この目標を実現することは、表2に示す「教員に求められる資質・能力」の基盤を培うものでもある。

(表2) 教員に求められる資質・能力



中央教育審議会答申「新しい時代の義務教育を創造する」(H17.10.26)より

[注] 平成17年10月の中央教育審議会答申「新しい時代の義務教育を創造する」では、優れた教員の条件として、「教育に対する熱い情熱」、「教育の専門家としての確かな力量」、「総合的な人間力」の3つの要素とそれぞれの具体的な内容を示している。資料2は、その内容を図としてまとめたものである。

(3) 計画

前述の目標を達成するため、全学共通「教職課程」に属する科目や各学部・研究科の専門科目に属する教職科目を配置するとともに、各学部・研究科と教職課程支援部門が連携し、教員養成に取り組んでいる。